

蛇のいろいろ = = = 三州横山話より

最も数多くいるのは、山カガシで、青大将（ナマズと言う）、蝮、縞蛇（シロオロチとも言う）、烏蛇、ヒバカリなどで、稀に、ジモグリという、地の中をモグッてあるくミミズの大きいような、真っ赤な蛇があると言います。

蝮（マムシ）



頭が三角で...などと言いますが、マムシの特徴は何と言っても、背中のマダラ模様です。長さは40cmから大きくても50cm位までです。マムシは臆病な蛇で、自分から襲って来ることはありませんが、知らずに踏んでしまったり、手で触ったりすると咬まれることがあります。マムシに咬まれた人の話を訊くと、咬み付いているところを見た人は殆んどありません。咬んだへびさえ果してマムシだったのかはっきりしない人が多いのです。咬まれた跡と、腫れてくるので、マムシに違いないと思うそうです。マムシのマダラ模様が咬まれたところから、徐々に全身に広がっていくそうです。

私の祖父の亀作と言う人は、草刈をしていてマムシに咬まれたとき、辺りに縛るものがないので、咬んだマムシの皮を剥いて手首を縛り、毒が廻るのを止めたそうです。それでも体の半分がマムシの柄に腫れあがったと言っていました。昔は血清などは無かったし、病院に行くのも何時間もかかったので、毒を吸い出して家で静かに寝ているしか方法が無かったのです。最近では、抗体が飽和して次に咬まれると危険だと言うことで、病院でも出来るだけ血清は使わないで治療するようです。

ネットで捜していたら、咬まれた時の対処法があったので参考にして下さい。

【毒へびにかまれたら】

まずかまれた人を静かに寝かせる。動くと毒が全身に広がるので注意する。

かまれた傷の心臓に近い側をひもで縛り、毒が全身にまわるのを防ぐ。かまれたところは赤くはれ歯型が2ヶある。その部分を長さ5mm深さ5mm切開し、口を当て強く毒を吸い出す。このような処置をするとともにできるだけ早く医師へ連絡する。

カミソリなど切開するものがすぐ見つからないとき、急を要するので、かまれたところに口を当て、強く毒を吸い出す。これを10回位くり返す。

病院へはできるだけ静かに運ぶが、かまれた手や足は低くする。できればかまれた毒へびの種類を確める。

かまれてから1時間以上たっているものは、縛っても意味がない。

できるだけ早く医師から血清注射を受けたほうがよい。